Cognition 誌上におけるメタファー論争の顛末(1)
― Murphy の主張―

鍋　島　弘治朗

1．はじめに

1996年から1997年にかけて，アメリカの認知科学雑誌 *Cognition* 誌上において，Murphy と Gibbs の間で認知メタファー理論の主張の正当性に関して論争が行われた。本稿では，これら三つの論文（Murphy, 1996; Gibbs, 1996; Murphy, 1997）からその論争の趣旨を再録し，特にこれら一連の論文の発端となった Murphy(1996) における主張の誤りを指摘したい。

本稿の構成は，本第1節に続き，第2節で認知言語学におけるメタファー理論の枠組みを簡単に紹介し，第3節で Murphy(1996) の主張をまとめ，第4節で，Murphy(1996) に対する Gibbs の反論（Gibbs, 1996），さらにそれに対する Murphy の再反論（Murphy, 1997）の論旨をまとめ，第5節において，主に Murphy(1996) の議論を中心としてその誤謬に関して指摘する。第6節では，Murphy(1996) が代替案として提案している構造的類似性モデルを検討し，認知メタファー理論の優位性を確認する（なお，本論文は(1)と(2)で完結する）。

2．認知言語学におけるメタファー理論の概要

Reddy(1979) を受けた Lakoff and Johnson(1980) から認知言語学的メタファー研究は始まったといえる。*Metaphors We Live By*（以下 L & J）である。これは萌芽であり，研究プログラムの青写真であった。L & J によるメタファ

ー分析の手法は以下のようなものである。

(1)に上げるような言語表現を見ると理論に関して建物の用語が繰り返し使われていることがわかる。

(1) a. Is that the *foundation* for your theory?
b. The theory needs more *support.*
c. The argument is *shaky.*
d. We need some more facts or the argument will *fall apart.*
e. The argument *collapsed.*
f. So far we have put together only the *framework* of the theory.

Foundation（基礎），*support*（支え），*shaky*（揺れる），*fall apart*（崩れる），*collapse*（崩壊する），*framework*（枠組み）などの建物の表現を理論に使用する例は日本語でも見ることができる。なお，日本語では，メタファーの表記として《理論は建物である》と太字が使用され，《　》で囲まれることが多い（以下の例文は山梨，1988: p.56より）。

(2) a. X理論の土台はがたがただ
b. 例の理論の基本的な枠がまだ完成していない
c. その理論は骨組みからたて直さなければならない
d. Y理論は三つの支柱からなっている

上記の定義に照らして見ると，「領域」とは，この場合，「理論」領域と「建物」領域ということになる。この場合，「写像」とは，二つの領域間に語彙などの対応関係があることである。特に注意を喚起しておきたいのは，語彙の対応自体がメタファーなのではなく，対応関係にあるのは，領域であることである。

理論	←	建物
理論の基礎となる部分，前提的考え方	←	土台
理論の概要	←	骨組み
理論の説得力が失われる	←	崩れる

このことは，写像が語彙だけでなく，後に述べる「推論」にも及んでいることからわかる。メタファー理論における推論（inference/entailment）とは，ある領域に関する知識である。人は建物に関して幅広い知識を有している。例えば，(3)のようなものである。

(3) a．土台がしっかりしていなければ，高い建物は建てられない
b．土台が崩れれば，全体が崩れるが，上層が壊れても必ずしも土台が崩れるとは限らない
c．建物が揺れることは建物が崩れる危険性があることである
d．堅牢な建物は壊れにくい

語彙のみならず，理論を建物として語った場合にこういった知識も保持される。理論と建物のように，関連しない２つの領域の語や推論の間にこのような対応関係がある場合，この複数の対応関係を写像と呼ぶ。写像では複数の要素が対応するだけでなく，要素間の関係および関係のシステムもすべて保持される。本稿ではこれを構造的対応関係と呼ぶことにする。

また，２つの領域間には非対称性が見られる。すなわち，「建物」の用語が「理論」の用語として用いられ，「建物」に関して我々が持つ推論が「理論」の思考に用いられているわけである。この場合の「建物」領域は「Source Domain（起点領域）」，「理論」領域は「Target Domain（目標領域）」と呼ばれている。今後，モト領域／サキ領域という用語も使用する。

ここまでを，Theories Are Buildings の例を用いて確認すると以下のようになる。

・メタファーの定義：メタファーとは領域間の写像（構造的対応関係）である。
・メタファーの表記：Theories Are Buildings（《建物は理論である》）
・領域：この例における「理論」領域および「建物」領域
・Source Domain（起点領域／S領域／ソース領域／モト領域）：この例における「建物」領域
・Target Domain（目標領域／T領域／ターゲット領域／サキ領域）：この例における「理論」領域
・写像：語彙や推論などに，要素，関係，構造の対応関係があること

これに加えて，メタファーの重要な概念として，経験的基盤（動機づけ）がある。メタファーの経験的基盤の重要性に関して，Lakoff and Johnson(1980)は，(4)のように記している。

(4) We feel that no metaphor can ever be comprehended or even adequately represented independently of its experiential basis... (Lakoff and Johnson 1980: p.19)

ちなみに経験的動機づけとは，例えば以下のようなものであり，モト領域とサキ領域が共起する状態を実際に体験すること，概して言えば共起的体験と言える。

—本の数が多ければ高く積みあがる（→ More Is Up）
—意識のある時は立って行動しており，眠っているときは床に伏して低い（→ Conscious Is Up）
—視覚情報から物事を理解することが多い（→ Knowing Is Seeing）
—目的を達成するためにはどこかへ行かなくてはならない（→ Achieving a Purpose is Reaching a Destination）

そこでメタファーの経験的基盤（動機づけ）に関して以下のように述べるこ

とができる。

・メタファーの動機づけ：メタファーの動機づけとは，モト領域とサキ領域との共起経験である。

L & Jのモト領域，サキ領域，動機づけは，それぞれ，旧来のメタファー研究における，Vehicle（媒体），Tenor（主意），Ground（根拠）に対応する。L & Jでは，対応関係を表現レベルでなく概念レベルとし，領域単位で構造が対応するとした点が新しい。

3．Murphy(1996) の主張の概説

本節では，2節に述べた認知言語学におけるメタファー理論（L & Jおよびその後のこのパラダイムにおける研究）の方法論に関するMurphy(1996) の主張をその構成に従ってまとめる。

3.1 Murphy(1996) の構成

Murphy(1996) は，以下のような構成を取っている（訳語は筆者）。

1．Introduction（序論）
2．Metaphor（メタファーについて）
3．Two interpretations of metaphoric representation
（メタファー表象の二つの解釈）
3.1 The strong version of metaphoric representation
（メタファー表象の強いバージョン）
3.2 The weak version of metaphoric representation
（メタファー表象の弱いバージョン）
3.3 An alternative view（これに代わる見方）
4．Strong metaphoric representation（強いメタファー表象）

5. The weak view of metaphoric representation（メタファー表象の弱い見方）
5.1 Problems of circularity of evidence（証拠の循環性の問題）
5.2 Problems of multiple metaphors（複数のメタファーの問題）
5.3 Polysemy（多義）
5.4 Motivation for metaphoric representation（メタファー表象の動機づけ）
5.5 Metonymy（メトニミー）
5.6 Linguistic and psycholinguistic evidence（言語的証拠と心理言語的証拠）
6. Structural similarity alternative（構造的類似性という代替案）
6.1 The asymmetry problems（非対称性の問題）
6.2 Arguments against the similarity view（類似性という見方に対する反論）
7. Conclusion（結論）

序論で問題提起を行い，第2節でメタファー理論に関して述べた後，Murphy (1996) は，L & J の主張に対して二種類の解釈を設定する。これが，第3節である。ここでは認知メタファー理論の「強い解釈」と認知メタファー理論の「弱い解釈」と呼ぶことにする。さらに第4節で認知メタファー理論の「強い解釈」の説明と反論，第5節で認知メタファー理論の「弱い解釈」の説明と詳細な反論を展開する。第6節では代替案として構造的類似性説を提示している。

以下では，3.2でMurphy(1996)の主張する認知メタファー理論の「強い解釈」とこれに対する反論，3.3で，Murphy(1996) の主張する認知メタファー理論の「弱い解釈」とこれに対する反論，3.4で構造的類似性理論の説明とこれが認知メタファー理論の欠点を持っていないという主張を見ていきたい。

3.2 Murphy(1996) の主張する認知メタファー理論の「強い解釈」と反論

本小節では，Murphy(1996) による認知メタファー理論の「強い解釈」と反論の論旨を取り上げる。

3.2.1 Murphy(1996) による認知メタファー理論の「強い解釈」の原典

Murphy(1996) による認知メタファー理論の「強い解釈」では，ARGUMENTS ARE WARS の例を取り以下のように述べているので，少し長くなるが引用する。

In the strong view, our direct representation of arguments is a set of connections to another domain, which provides an interpretation of the entities in the argument concept. For example the matter under dispute in the argument corresponds to the object (land, power) being fought over in a war. Each person is interpreted as a combatant; the arguments are weapons used to protect one's own view or to attack the opponent's; arguments in favor of one's position are viewed as defenses; arguments criticizing the other person's assumption or position are viewed as offensive maneuvers; and so on. On this view, when I think about arguments, I use my knowledge of war to reason about and understand the argument.

また，L & J や Lakoff and Turner(1989) を挙げて，以下のような主張を再録している。

Lakoff and Turner(1989, p.5) say that the LIFE IS A JOURNEY metaphor shows that the "structuring of our understanding of life comes from the structure of our knowledge about journeys." This claim seems consistent with the strong view, as does the statement (L & J, p.5), "The essence of metaphor is understanding and experiencing one kind of thing in terms of another." (See also Lakoff, 1993, p.206.)

つまり，LIFE IS A JOURNEY メタファーは「私たちの理解する『人生』の構造は『旅』の構造に由来する (comes from)」ことを示しているのであり，

メタファーは一般に「ある種のこと（もの）を異なること（もの）の点［見地，角度，規準］から[1]（in terms of）理解し経験することである」という認知言語学におけるメタファー理論の主張を再提示している。

3.2.2 Murphy (1996) による認知メタファー理論の「強い解釈」の「解釈」

前小節で見た解釈だけでは，どうして「強い解釈」なのか理解できないが，次の引用を見るとその「解釈」が明らかになろう（下線はすべて筆者）。

Suppose that my concept of argument were carried by a set of pointers to my war concept. (p.180)

If these pointers are like most other pointers described in theories of mental representation (e.g. Anderson and Bower, 1973; Collins and Quillian, 1969; Fahlman, 1979), then my concept of an argument would include a lot of incorrect information. For example, I might think that when people argue, they go to high locations, in order to shoot and kill their adversaries. <u>I might think that napalm and missiles are typically used in modern arguments,</u> and that the participants wear uniforms. I might think that the loser of the argument has to pay reparations to the winner, and so on. (p.180)

つまり，ARGUMENTS IS WAR におけるリンクが，心的表象理論におけるいわゆるポインターだとすると，人々は議論をする際に実際に人を殺してしまう，という帰結を述べている。ここでいうポインターとは，(Anderson and Bower, 1973; Collins and Quillian, 1969; Fahlman, 1979)の意味で，例としては，以下の dog の例が挙げられている。

dog → having fur
　　barking

having four legs

a mammal

次に，ARGUMENTS IS WAR におけるリンクが，いわゆるポインターでない場合に関して述べ，Encyclopedias are gold mines という別のメタファーの例を挙げ，「百科事典は金鉱だ」という表現の理解が人間にはたやすいが，心的表象の理論としては二つの異なるものをつなぐ「リンク」の説明がないと主張している。

This lack of explicitness in relating the topic and vehicle causes no problems for a person understanding a verbal metaphor, assuming the person already knows a considerable amount about encyclopedias and gold mines. It becomes problematic, however, when it is taken as a model of mental representation. The obvious question is: who is interpreting the metaphoric link? Presumably there is no homunculus who knows enough about encyclopedias and gold mines to work out the correct interpretation of the metaphoric link. The link is supposed to represent the concept, so it can't require knowledge about the concept in order to work.

つまり，リンク自体が心的表象だとすると，リンクが「百科事典」と「金鉱」に関する知識を持ち得ない。よって，いわゆるポインターでなければ，モト（この場合，金鉱）とサキの概念（この場合，「百科事典」）をつなぐことができない，という主張である。

ARGUMENT IS WAR の例を使ってまとめると，「強い解釈」への反論は以下のようになる。

①リンクが“normal”であれば，議論と戦争を実際に混同するという異常事態になる。

②リンクが“metaphorical”であれば，その存在の根拠が必要である。

3.3 Murphy(1996) の主張する認知メタファー理論の「弱い解釈」と反論

Murphy(1996) は実は，それほど本気で「強い解釈」を主張しているのではなさそうであり，それは，「弱い解釈」に対する批判に力をいれていることから感じられる。p.182から始まる「弱い解釈」では，1．言語的証拠の循環性，2．複数のメタファーの問題，3．多義の問題，4．動機づけの問題，5．メトニミーに関して，6．心理言語学的証拠に関しての6つの項目に関して語られている。ここでは紙面の都合上，より重要と思われる1—4に関して取り扱う。なお，「弱い解釈」は以下のように規定される。

On the weak view of metaphoric representation, the representation itself is direct. That is, arguments are represented via symbols that stand for arguers (not combatant), claims (not battle positions), various argument parts (not battles), and so on. However, the content and structure of this representation is somehow causally influenced by the metaphor ARGUMENT IS WAR. It is not clear from L & J how this causal structuring would work — that is, how war is chosen as the vehicle for interpreting argument, and how it modifies the topic.

3.3.1 言語的証拠の循環性

Murphy(1996) は，Whorfの言語と思考に関する議論でよく行われる議論を例示し，認知言語学におけるメタファー理論も同様の問題を有していると示唆する。

Whorfian: Eskimos are greatly influenced by their language in their perception of snow. For example, they have N words for snow [N varies widely — see Pullum, 1991], whereas English only has one, snow. Having all

these different words makes them think of snow very differently than, say Americans do.

Skeptic: How do you know they think differently?

Whorfian: Look at all the words they have for it! N of them! They must make a lot of distinctions between kinds of snow that we don't, since they just call it all snow.

（中略）

The same kind of criticism could be made of the evidence for the weak metaphoric view. In L & J, a cultural metaphor is identified on the basis of various idioms and collocations, such as *I destroyed her argument; he lambasted me in class; she undermined my position.* Then a metaphoric representation is proposed on the basis of these data, such as ARGUMENT IS WAR. What predications or consequences are derived from this metaphoric representation? In L & J, it is further idioms and collocations: *He can't defend against that argument,* etc. There is an absence of other psychological data given in support of this view. Lakoff(1993, pp.205, 246) identifies five types of evidence for the metaphoric representation view: Four of them are linguistic, and one of them is psycholinguistic experiment.

つまり，言語学的な証拠以外の証拠を提示しておらず，循環論に陥っている，という指摘である。

3.3.2 複数のメタファーの問題

複数のメタファーの問題（p.184）では，同じサキ領域を表すのに複数のモト領域が使用されていることを例に取り批判を加えている。同論文に挙げられ

た恋愛と議論に関する複数のメタファーの例を以下に再録する。

LOVE IS A JOURNEY
LOVE IS AN OPPONENT
LOVE IS A UNITIY (OF TWO COMPLEMENTARY PARTS)
LOVE IS A HIDDEN OBJECT
LOVE IS A VAUABLE COMODITY (IN AN ECONOMIC EXCHANGE)
LOVE IS INSANITY

ARGUMENT IS A CONTAINER
ARGUMENT IS A BUILDING
ARGUMENT IS A JOURNEY
ARGUMENT IS WAR

これに関して，以下のような批判を加えている。

Although L & J have mentioned this phenomenon of multiple metaphors as included it in their account, it does not seem to actually be predicted by the underlying theory. For example, once one has understood love by conceptualizing it as a journey, it is not clear a priori why one would need to further conceptualize it as a battle or union or whatever.

L & J (p.105) suggest that multiple metaphors "together serve the complex purpose of characterizing the concept of an argument in all of its aspects, as we conceive them" (see also p.221). However, this explanatin appears to be directly contrary to the spirit of the metaphoric representation view. The explanation assumes that there is an independent conceptualization of argument, and multiple metaphors are needed to characterize all of its

aspects. If correct, then metaphors are not serving as casual organizers of the domain but are operating after the fact to describe or characterize the directly-represented domain. (This issue will be duscussed further in regard to the Invariance Principle below.)

There are other problems of multiple metaphors for a single domain. Suppose that the metaphor LOVE IS A FJOUENEY has had a causal influence on our concepts of love. So, the lovers are conceived of as people taking a trip together toward a common destination, starting as strangers, having many experiences, and then ending the trip (perhaps living happily ever after). If this is a viable metaphor for *love*, then it is hard to see how there is also room for LOVE IS A VALUABLE COMMODITY. On this metaphor (Kövecses, 1986, p.95), "a large part of the concept of LOVE is viewed as and comprehended in terms of commercial transactions." Here lovers are seen as "merchants exchanging goods," which are of equal value. <u>But in a commercial transaction, the goal is to maximize profit, so the participants have opposing goals. This is contrary to the journey metaphor, in which lovers begin with the same goal and work in concert.</u>

つまり，以下のような批判である。

①ひとつのメタファーがあるのにどうして他のメタファーが必要なのか

②様々なモト領域が「議論」という概念を特徴づける，とあるが，サキ領域（この場合「議論」）に固有の構造があることになり，「メタファーが構造を作り出す」という主張と矛盾するのではないか

③例えば目的を共有した《旅》メタファーと利害が背反する《商取引》メタファーでは矛盾が生じるのではないか

これに対して，Murphy(1996) は，可能な回答を書き上げている。

One possible reply to this objection is that there are different concepts for the same thing—for example, one love concept for the journey version, anther for the insanity version, another for the commercial transaction version, and so on.

Another possible way out of the multiple metaphor problem is to propose that the different metaphors address different parts of the topic concept.

つまり，この例ではLOVEの概念が複数あると考えるか，または，LOVEの概念はひとつだが，それにたくさんの側面があると考えることである。

さらにもうひとつの可能な回答として，Invariant Principle（Lakoff, 1993）に対する言及がある。Invariant Principle（不変性原理）とは，Invariant Hypothesis（不変性仮説：Lakoff, 1990）から発展したもので，不変性仮説にTarget Domain Override（サキ領域からの制約）[2)] を加えたものである。イメージとしては，サキ領域の構造には，漠然とした骨格（skeleton）が存在するのみで，モト領域からサキ領域に対して写像が行われることによってサキ領域が肉付けされる（flesh added）。

しかし，不変性原理の概念でも複数のメタファーの問題は解決しないという。やや長い段落でMurphy(1996）は以下のように述べる。

Unfortunately, the Invariance Principle cannot simultaneously preserve metaphoric representation and solve the problem of multiple metaphors—two incompatible properties must be attributed to it in order for it to do both job.

（中略）

In particular, what is to stop people from making inferences that are empirically incorrect about the target domain? That is, without more content

in the argument concept, the ARGUMENT IS WAR metaphor would allow people to infer that guns are used, etc. In order to prevent this, the skeleton must be detailed enough to specify which inferences are permissible and which are not. No one infers that guns are used in arguments, because one already knows that they are not. However, this turns out to be simply a form of direct representation after all, since the inherent structure of the domain must be detailed enough to determine what can and cannot be said about the concept. That is, if the skeleton (or other literal information in memory) truly prevents the incorrect inferences, then the concept seems to be directly represented: if it cannot prevent them, then it is empirically incorrect. Thus the skeleton needs to be both extensive (to prevent incorrect inferences (and minimal (to allow metaphoric mappings.) If one does not assume that information is represented metaphorically, then this paradox does not arise.

やや，トリッキーな論旨であるが，要するに，例えば，「議論に実際の銃を持ち込まない」のを保証するのが不変性原理だとすれば，サキ領域には「議論に実際の銃は使用しない」ということが書かれてある必要があり，そんなことまで書かれているサキ領域であればモト領域から加える構造もない。メタファー写像を想定するからこんな厄介な問題が生じるのである，という論旨である。

3.3.3 多義の問題

多義の問題として Murphy(1996) は，次のような例をＬ＆Ｊから再録している。

Inflation has gone up.
Get up. Wake up.
You're wasting my time.
Her ego is fragile.

The ship is coming into view.
We'll just have to go our separate ways. [about relationship]
He ran out of ideas.
He's seeking his fortune.

これらをL＆Jがメタファーであると論じていることに対し，Murphy(1996)は以下のように述べてこれらが多義語であること主張している。

It should be noted, though, that the same kind of evidence is normally taken by linguists as evidence of polysemy, the fact that words have a number of related meaning. (p.188).

However, this argument does not address the possibility that words like *rise* are polysemous, and that the different meanings are related by similarity.

Numberg(1978), Numberg(1979) argues that the same word can have multiple meanings if speaker can rely on listeners being able to recover the intended meaning, given the usual use of the word. (I am simplifying considerably here; see also Clark, 1991.) That is, given one sense of *rise* to indicate physical movement, can I infer the use that means a nonphysical increase, given the sentence and discourse context? In this case, since I know that inflation cannot physically rise but that it can certainly increase, it is possible to derive the intended nonphysical meaning. Metaphor does not seem necessary to explain this example. Of course, the similarity here is not of superficial features but of underlying relations. (i.e., an entity undergoes a change such that its value on a dimension increases). If we needed to carefully distinguish physical and nonphysical rising, we could have separate words in English to encode this distinction. However, it is generally quite

obvious in context, which kind of rising is intended, and so the cost in adding vocabulary is apparently greater than the need for greater accuracy in this case.

3.3.4 動機づけの問題

最後に，動機づけの問題として Murphy(1996) は以下のように述べている。

The primary motivation that L & J and Kövecses(1986) give for the necessity of metaphoric representation is that the source domain is too difficult or abstract for people to grasp directly.

ここでいう source domain は，target domain の誤りであろうと思われる。L & J も Kövecses(1986) もまったくそのような主張をしていないし，抽象的・漠然としたこと（Target domain）を，具象的・経験の豊かなこと（Source domain）で言い換えるのがメタファーだからだ。

それはともかく，この小節で Murphy(1996) は Ortony(1988) の Kövecses (1986) 批判を援用して以下のように述べ，具体例として，以下を挙げている。

However, Ortony points out that the emotions that are structured by these metaphors have generally been experienced by children much earlier and more extensively than the domains that are said to structure them.

ANGER IS A HOT LIQUID IN A CONTAINER
ARGUMENT IS WAR
LIFE IS A GAMBLING GAME
PROBLEMS ARE PRECIPITATES IN A CHEMICAL SOLUTION

子供は，「容器と圧力」について学ぶ前に，「怒り」を知り，「戦争」につい

て学ぶ前に「議論」を知り，「ギャンブル」を学ぶ前に「人生」を知り，「沈殿物」という概念を獲得する前に「問題」について理解するのだから，メタファーにおいてもモト領域がサキ領域よりもより馴染みが深いとは限らないという指摘である。

3.5 第三節のまとめ

以上，Murphy(1996) による認知メタファー理論に対する問題点の指摘を取り上げた。Murphy(1996) は，まず，認知メタファー理論の主張を「強い解釈」と「弱い解釈」に分け，「強い解釈」が非現実的であることの述べた後，「弱い解釈」に対して，1．言語的証拠の循環性，2．複数のメタファーの問題，3．多義の問題，4．動機づけの問題，5．メトニミーに関して，6．心理言語学的証拠に関しての6つの項目に関して批判を行っている。本稿では，メトニミーと心理学的証拠に関する部分を除いた主要な4点に関してその主張を再録した。つまり，1．言語学的な証拠は循環論的であり無効である，2．複数のメタファーの存在で理論が破綻する，3．メタファーとして挙げられている多くは多義である，4．多くのメタファーにはその動機づけが存在しない，という主張である。また，認知メタファーモデル（比喩写像モデル：Metaphorical Mapping theory: MMM）の代替案として構造的類似性モデル（Structural Similarity Model: SSM）を提示し，SSM が MMM の上記の問題点を有してないと主張しているがこれは第6節で再検討する。

MMM に対する批判に対する筆者の反論，および SSM の優位性に対する筆者の反論は第5節に譲るとして，次節では，その後の展開，すなわち，Gibbs (1996) の反論と Murphy(1997) の再反論を概説する。両者は分量にして合わせても Murphy(1996) の半分程度なので，簡単なものとする。

4．Gibbs の反論（Gibbs, 1996）と Murphy の再反論（Murphy, 1997）

以下では，Murphy(1996)に対するGibbs(1996)の反論を4.1で，Murphy(1997)の再反論を4.2で取り扱う。

4.1 Gibbs の反論（Gibbs, 1996）

Gibbs(1996) では，以下のような構成で Murphy(1996) に対する反論を行っている。

1．Why do people speak metaphorically?
（どうして人々はメタファーを使って話すのか）
2．Are metaphorical concepts independent?
（メタファー概念は独立しているのか）
3．The need for nonlinguistic evidence（非言語的証拠の必要性に関して）
4．The embodied motivation for metaphorical concepts
（メタファー概念の身体的動機づけ）
5．Conclusion（結論）

1と3が Murphy(1996) の5.1（本稿では前節3.3.1）に対応し，1の一部が5.3（本稿では前節3.3.3），2が5.2（本稿では前節3.3.2），4が5.4（本稿では前節3.3.4）に対応している。

4.1.1 Why do people speak metaphorically（どうして人々はメタファーを使って話すのか）

ここで，Gibbs(1996) は，次のような問題提起から始めている。

Perhaps the most fundamental problem Murphy has with the cognitive linguistic evidence in favor of metaphoric representations is that it is based on the analysis of linguistic expressions.

これに対する回答として，以下のように述べて認知言語学の意義を再確認している。

I agree that cognitive scientists must be cautious in inferring direct links

between language and thought. At the same time, it is interesting and important to ask why it is that people talk about the world and their experience in the ways that they do. Until the emergence of cognitive linguistics, scholars never recognized the systematic ways people talked about love, to take just one example, in a wide variety of languages, nor did scholars consider the idea that such talk might reflect important generalizations about people's metaphorical conceptualization of love.

次に Murphy(1996) の問題を指摘している。

The problem with Murphy's position is that people generally can't understand or talk about journeys in terms of love for the important reason that we don't generally talk about journeys in that way.

この非対称性の問題を継続して指摘し,「JOURNEY が LOVE より典型的であるだろうか」と Murphy による typicality の説明では十分ではないとする。さらに, 以下のように述べて, Murphy (1996) の不明を批判し,「強い解釈」を擁護する。

Moreover Murphy dismisses the strong view of metaphoric representations in part because it remains a bit unclear as to which aspects of the source domain are mapped onto the target domain.
(中略)
<u>The fact that there remains disagreement over this, and the fact that Murphy seems to not have his own response, should not be taken as a reason to reject the idea of metaphoric representations.</u>

次に多義に関して以下のように述べる。

A related part of Murphy's argument against metaphoric representations is seen in his discussion of the cognitive linguistic work on polysemy. Once again, Murphy questions whether demonstrations of the metaphoric nature of the way people speak necessarily inform us about people's mental representations for words and concepts. Murphy argues that polysemy can be best described in terms of the abstract similarity between physical and nonphysical senses of a word without any need for postulating the existence of metaphor Thus the use or rise to refer to both physical (e.g., *The water level rose*) and nonphysical (e.g., *Inflation is rising*) meanings can be explained by the literal similarity of these meanings — there is no reason to assume that speakers metaphorically infer that nonphysical meaning from the physical one.

（中略）

つまり，Murphy(1996) は，メタファーによる多義を認めていないと指摘している。

The cognitive linguistic research has demonstrated that metaphor, in addition to metonymy and several other relations, provides an important process by which the different senses of words are linked together to form linguistic representations (Brugman and Lakoff, 1988; Lindner, 1983; Rice, 1992; Sweetser, 1990)

さらに，認知言語学ではメタファーがメトニミーや他の関係と連携して多義の重要な源泉になっていることを指摘している。

4.1.2 Are metaphorical concepts independent?（メタファー概念は独立しているのか）

この節でGibbs(1996)は複数のメタファーの問題を取り扱い，Murphy(1996)の前提に関して以下のように，心的表現は「ジグソーパズル」のようにすべてがぴったりとお互いに当てはまるものではないと述べている。

These different metaphors appear, at times to be inconsistent with one another and it is unclear, in Murphy's view, how one resolves such inconsistencies in the mental representations for our concept of love.

（中略）

This argument appears to preserve a view of mental representations in which the attributes of each concept must fit together like pieces of a jigsaw puzzle.

（中略）

The so-called problem of multiple metaphors for concepts can be easily handled if we view concepts not as fixed, static structures but as temporary representations that are dynamic and context-dependent.

4.1.3 The need for nonlinguistic evidence（非言語的証拠の必要性に関して）

ここは，取り扱わなかったMurphy(1996) の5.6に対応する部分なのでここでも割愛する。

4.1.4 The embodied motivation for metaphorical concepts（メタファー概念の身体的動機づけ）

Gibbs(1996) は重要な問題として，メタファーの動機づけに関して述べる。

Murphy raises one important question on the motivation for metaphorical representations. Why is it that certain conceptual metaphors, but not others,

are used by people in speaking about abstract concepts? In discussing this question, Murphy never considers the large literature suggesting that much metaphorical thinking arises form our embodied experiences in the world (Johnson, 1987; Lakoff, 1987, 1990). For example, central to our understanding of the conceptual metaphor ANGER IS HEATED FLUID IN A CONTAINER is the embodied experience of containment. We have strong kinesthetic experiences of bodily containment ranging from situations in which our bodies are in and out of containers (e.g. bathtubs, beds, rooms, houses) to experiences of our bodies as containers in which substances enter and exit. An important part of bodily containments the experience of our bodies being filled with liquids including stomach fluids becoming heated. These various, recurring bodily expeditions give rise to the development of an experiential gestalt, called an image schema, for CONTAINMENT (Johnson, 1987).

ここでは，Murphy がメタファーの存在理由を問うていることを評価し，認知言語学では身体的動機づけとしてすでに幅広い考察がなされていることを指摘している。

4.2 Murphy の再反論（Murphy, 1997）

Murphy(1997) では，以下のような構成で Gibbs（1996）に対する再反論を行っている。その内容は，ほとんど話を終局させようとする意図が感じられるまとめ方であり，新たな問題点や論点を打ち出そうとするものではない。

1．Empirical evidence（実証的証拠）
2．Linguistic data（言語データ）
3．Idioms（慣用句）
4．Conceptual consistency（概念的一貫性）

5．Asymmetry and similarity（非対称性と類似性）
6．Conclusion（結論）

4.2.1 Empirical evidence（実証的証拠）

まず，Murphy(1997) は，代替的理論との比較で自説の優位性を述べることの重要性を指摘する。次に，Gibbs(1996) が Murphy(1996) を単義説の支持者と批判したことを誤解と述べ，次のように Gibbs(1996) に同意する。

Gibbs argues against the view that polysemy can be accounted for by monosemy, or abstract features or relations of similarity that underlie all the different senses of a polysemous word. I agree completely that this view is unlikely to be true.

しかし，多義説が認知言語学の専売特許でないことを指摘し，これに続けてメタファー文献では，どうして，メタファーではない比較理論が発展しないのかと嘆く。

But there are many possible accounts of polysemy besides this one that do not refer to metaphoric meanings (see Cruse, 1986; Nunberg, 1979; Rice, 1992). My own work has investigated the possibility of chains of similarity that can motivate extended meaning (Murphy, in press), as *rise* has been extended from a physical use to a related abstract use (e.g. *Inflation is rising,* discussed in my original article).

My purpose here is not to promote my own theory of polysemy, but simply to point out that articles on metaphoric representation often do not develop such plausible nonmetaphoric theories for comparison.(p.101)

次にメタファーがモデルとして明確でないことを述べ，心的表象の理論（Anderson, 1991; Brooks, 1987; Estes, 1994; Hintsman, 1986; Kruschke, 1992; Medin and Schaffer, 1978; Nosofsky, 1988）における前提，学習機構，プロセスモデルなどの精緻さをひとつの例として挙げる。また，基本レベルカテゴリー（Rosch et al., 1976）の研究も評価する。これに対するメタファー理論のあいまい性を次のように述べる。

The point of these examples is to contrast two well-known domains of research in the concepts field with metaphoric models of concepts. In my view, there is no single well-defined model of metaphoric concepts in the literature that can match the specificity of these theories.
（中略）

Any theory of conceptual structure needs to spell out in detail exactly what a metaphoric concept is, and how it operates in any given task.

4.2.2 Linguistic data（言語データ）

証拠としての言語データの使用に関して Murphy(1997) は Murphy(1996) に引き続き否定的な見解を述べる。

The dependent measures of studies of concepts include category learning and formation (e.g., Kruschke, 1992; Nosofsky, 1988; Spalding and Murphy, 1996) induction (Gelman and Markman, 1986; Malt et al., 1995; Osherson et al., 1990), typicality (Barsalou, 1985), categorization decisions (Rips et al., 1973; Rosch et al., 1976) and so on.
（中略）
A central point of my article is that the linguistic evidence by itself is dubious, because it assumes that a certain pattern in speech directly reflects

conceptual structure.

（中略）

Taking verbal metaphors and idioms as evidence about conceptual structure is assuming a particular answer to the question - an answer that is not yet well supported in my view.

4.2.3 Idioms（慣用句）

これはここまで割愛してきた議論に対応するので本稿では触れない。

4.2.4 Conceptual consistency（概念的一貫性）

ここでは，Gibbs(1996) の意見に一定の評価を見せている。

I think that the strongest point that Gibbs make is his argument that concepts may not be entirely consistent entities that fit together like a jigsaw puzzle.

しかし，以下のように不整合性に関する批判を行っている。

Especially for very abstract complex concepts, this seems unlikely. Yet, it seems to be equally unlikely that radically different metaphors for the same entities can structure the same concept regardless of what conflicts they may engender.

4.2.5 Asymmetry and similarity（非対称性と類似性）

これもここまで割愛してきた議論に対応するので本稿では触れない。

4.3 第4節のまとめ

以上，Murphy(1996) に対する Gibbs(1996) の反論と Murphy(1997) の再

反論の概要をまとめた。全般に対する印象としては，Gibbs(1996) が Murphy (1996) に対してかなり違う方向から反駁を加えており，これに対して Murphy(1997) は Gibbs(1996) の論旨展開に沿いながら全般をまとめると共にややトーンダウンしながら Murphy(1996) の主張を再度確認するという展開になっているように思われる。また，全般に Murphy(1996) の批判と主張に対して Gibbs(1996) の反論が充分にかみ合っているとは思われない。そこで，第5節では，第4節の内容を適宜加えながら，第3節の内容に沿って Murphy (1996) による認知メタファー理論に対する批判に答えていく。次に第6節で，Murphy(1996) が代替案として提示する構造的類似性モデル（SSM）と比喩写像モデル（＝認知メタファー理論：MMM）を比較し，認知メタファー理論の方が優れていることを主張する。

（続く）

注

1）in terms of の訳語の一例 （Progressive English-Japanese Dictionary, Third edition © Shogakukan 1980, 1987, 1998/ プログレッシブ英和中辞典 第3版 ©小学館 1980, 1987, 1998）

2）Target Domain Overrides（写像に課されるサキ領域からの制約）

Lakoff(1990) で Lakoff はメタファーに関して，不変性仮説（Invariance Hypothesis）として，（i）を述べている。

（i）不変性仮説（Invariance Hypothesis）

Metaphorical mappings preserve the cognitive topology (that is, the image-schema structure) of the source domain.（メタファ写像はソース領域の認知トポロジー（つまり，イメージ・スキーマ構造）を維持する） （杉本（2000）訳）

Lakoff（1993）では，これに一部修正が加わり，名称も不変性原理（Invariance Principle）と変わっている。

（ii）Metaphorical mappings preserve the cognitive topology (that is, the image-schema structure) of the source domain, in a way consistent with the inherent structure of the target domain. (Lakoff 1993: p.215)

これは，（iii）に見るように，2つの部分に分けられる。前半は Lakoff（1990）で Invariance Hypothesis として記述されたもの，これが強すぎるとして修正として不変性

原理で新たに付け加えられた部分が後半である。

（iii）①Metaphorical mappings preserve the cognitive topology (that is, the image-schema Structure) of the source domain, ②in a way consistent with the inherent structure of the target domain.

すなわち，メタファーではモト領域のイメージスキーマ的構造が保持されるが，サキ領域の固有の構造に矛盾する場合は写像されない，ということである。これは Target domain overrides（写像に課されるサキ領域からの制約）と呼ばれている。詳細は鍋島（2003e）参照。

参考文献

Berlin Brent and Paul Kay. 1969. *Basic Color Terms: Their Universality and Evolution. Chicago*: University of Chicago Press.

Charteris-Black, Jonathan. 2004. *Corpus Approaches to Critical Metaphor Analysis. London*: Palgrave.

Cienki, Alan. 1998. STRAIGHT: An image schema and its metaphorical extensions. *Cognitive Linguistics*. 9-2, 107-149.

Clausner, Timothy and William Croft. 1999. Domains and image schemas. *Cognitive Linguistics* 10-1, pp.1-31.

Cooper, W., and J.R. Ross. 1975. "World Order." In Grossman and Vance, 1975. *Papers from Parasession on Functionalism*. Chicago: Chicago Linguisitics Society (CLS).

Croft, William. 2001. *Radical construction grammar*. Oxford: Oxford University Press.

Falkenhainer, B., Forbus, K.D., and Gentner, D. 1989. The structure-mapping engine: Algorithm and examples. *Artificial Intelligence*, 41, 1-63.

Fillmore, Charles. 1977. "Scenes-and frames semantics.." In Zampolli, A. ed. *Linguistic structures processing*. Amsterdam: North-Holland Publishing.

Fillmore, Charles. 1985. Syntactic intrusions and the notion of grammatical construction. *Proceedings of the 11th Annual Meeting of the Berkeley Linguistics Society*.

Fillmore, Charles. 1988. The mechanisms of construction grammar. *Proceedings of the 14th Annual Meeting of the Berkeley Linguistics Society*.

Fillmore, Charles. 1997. *Lecture on deixis*. CSLI Publications,(1997)（初出は1971）.

Gentner, Dedre. 1983. Structure-mapping: A theoretical framework for analogy. *Cognitive Science*, 7, 155-170.

Gibbs, Raymond W. 1996. Why many concepts are metaphorical. *Cognition*. 61. 309-319.

Glucksberg, Sam and Boaz Keysar. 1993. How metaphors work. In Ortony, A ed. *Metaphor and thought*. Cambridge: Cambridge University Press.

Grady, Joe. 1997. THEORIES ARE BUILDINGS revisited. *Cognitive Linguistics* 8(4),

267-290.

Grady, Joe. 1997. Foundations of meaning: primary metaphors and primary scenes. Ph.D. dissertation, University of California, Berkeley.

Grady, Joe. 1999. A typology of motivation for conceptual metaphor: correlation vs. resemblance. In Gibbs, R. and G. Steen, eds, *Metaphor in cognitive linguistics*. Philadelphia: John Benjamins.

Grady, Joe, Sarah Taub, and Pamela Morgan. 1996. Primitive and compound metaphors. In Goldberg ed. *Conceptual structure, discourse and language*. Stanford: CSLI publications.

グループμ 1970.『一般修辞学』（佐々木健一・樋口桂子訳，1981）大修館書店

平賀正子　1992.「詩における類像性について」日本記号学会編『ポストモダンの記号論』（記号学研究12）

池上嘉彦　1981.『「する」と「なる」の言語学』大修館書店

Johnson, Mark. 1987. *The body in the mind: The bodily basis of meaning, imagination, and reason*. Chicago: University of Chicago Press.

荒川洋平　1999.「パーソナル・コンピュータの名称における隠喩の分析」『獨協大学諸学研究』第2巻第2号

河上誓作　編著　1996.『認知言語学の基礎』研究社出版

谷口一美　2003.『認知意味論の新展開：メタファーとメトニミー』（英語学モノグラフシリーズ第20巻）研究社出版

Kövecses, Zoltán. 1995. "American friendship and the scope of metaphor" *Cognitive Linguistics* 6-4, 315-346.

Kövecses, Zoltán. 2002. *Metaphor: A practical introduction*. Oxford: Oxford University Press.

Kovecses, Zoltan and Gunter Radden. 1998. Metonymy: Developing a cognitive linguistic view. *Cognitive Linguistics* 9-1, 37-77.

國廣哲彌　1982.『意味論の方法』大修館書店

Kusumi, Takashi. 1987 "Effects of categorical dissimilarity and affective similarity of constituent words on metaphor appreciation". *Journal of Psycholinguistic Research*, 16, 577-595.

楠見　孝　1990.「比喩理解の構造」芳賀　純・子安増生（編）『メタファーの心理学』誠信書房

Lakoff, George. 1987. *Women, fire, and dangerous things*. Chicago: The University of Chicago Press.（池上嘉彦，河上誓作他訳『認知意味論—言語から見た人間の心』，紀伊国屋書店，1993年

Lakoff, George. 1989. The death of dead metaphor. *Metaphor and Symbolic Activity*, 2(2), 143-147.

Lakoff, George. 1990. The Invariance hypothesis: Is abstract reason based on image

schemas? *Cognitive Linguistics* 1, 39-74.(杉本孝司訳「不変性仮説—抽象推論はイメージ・スキーマに基づくか?」坂原茂編『認知言語学の発展』, ひつじ書房, 2000年)

Lakoff, George. 1993. The contemporary theory of metaphor. In Ortony, A ed. *Metaphor and thought.* Cambridge: Cambridge University Press.

Lakoff, George. 1996. *Moral politics. — What conservatives know and liberals don't.* Chicago: The University of Chicago Press. (小林良彰・鍋島弘治朗訳 1998.『比喩によるモラルと政治』木鐸社)

Lakoff, George and Mark Johnson. 1980. *Metaphors we live by.* Chicago: University of Chicago Press.

Lakoff, George and Mark Johnson. 1999. *Philosophy in the flesh.* New York: Basic Books

Lakoff, George and Rafael E. Nunez. 2002. Where mathematics comes from. New York: Basic Books.

Lakoff, George and Mark Turner. 1989. *More than cool reason: a field guide to poetic metaphor.* Chicago: University of Chicago Press.(大堀俊夫訳『詩と認知』, 紀伊国屋書店, 1994年)

Langacker, Ronald 1987. *Foundation s of cognitive grammar. Vol.1: Theoretical prerequisites. Stanford,* Calif.: Stanford University Press.

Lindner, Sue. 1983. *A lexico-semantic analysis of verb-particle constructionwith "up" and "out."* Bloomington: Indiana. Indiana University Press.

Markman, Arthur B. and Dedre Gentner. 1993. Splitting the differenes: A structural alighment view of similarity. *Journal of Memory and Language.* 32, 517-535.

松本曜 2000.「日本語における身体部位詞から物体部分詞への比喩的拡張—その性質と制約」坂原茂編『認知言語学の発展』, pp.317-346, ひつじ書房

籾山洋介 1997.「慣用句の体系的分類—隠喩・換喩・提喩に基づく慣用的意味の成立を中心に—『名古屋大学国語国文学』第80号

森雄一 2002.「隠喩は二重の提喩か?」『成蹊大学文学部紀要』第37号

Murphy, Gregory L. 1996. On metaphoric representation. *Cognition.* 60. 173-204.

Murphy, Gregory L. 1997. Reasons to doublt the present evidence for metaphoric representation. *Cognition.* 62. 99-1084.

Musolff, Andreas. 2004 *Metaphor and Political Discourse: Analogical Reasoning in Debates about Europe.* London: Palgrave.

鍋島弘治朗 1997「動詞『かける』の多義に関する認知的考察—比喩が意味拡張に果たす役割—」『Proceedings of the 21st Annual Meeting』関西言語学会

鍋島弘治朗 2000.「水の比喩(メタファー)—日本語の比喩研究における方法論に関する一考察—」日本言語学会120回大会口頭発表

鍋島弘治朗 2001a.「『悪に手を染める』—比喩的に価値領域を形成する諸概念」『大阪大学言語文化学10』

鍋島弘治朗　2001b.「『可能性』はなぜ『薄い』のか―比喩の合成と衝突が生産性を抑圧する場合」『Proceedings of the 25th Annual Meeting』

鍋島弘治朗　2001c.「有情と比喩：見立てによる構文や表現の拡張」国語学会2001年度秋季大会口頭発表.

鍋島弘治朗　2002a.「Causation（使役／因果）の概念化―認知メタファー理論の視点から―」『文学論集』第52巻　第２号　関西大学文学会

鍋島弘治朗　2002b.「政治を動かすメタファー」『言語』2002年７月号　大修館書店

鍋島弘治朗　2002c.「Generic is Specificはメタファーか―慣用句の理解モデルによる検証―」『Proceedings of the 2nd JCLA Annual Meeting』認知言語学会

鍋島弘治朗　2002d.「『希望』の概念化―認知メタファー理論の視点から―」『英文学論集』第42号　関西大学英文学会

鍋島弘治朗　2002e.「メタファーの身体性基盤について」『人工知能学会ことば工学研究会資料』第 SIG-LSE-A202巻

鍋島弘治朗　2003a.「言語学的アラインメント試論―写像（mapping）の骨格としての整列（alignment）―」『英文学論集』第43号　関西大学英文学会

鍋弘治朗　2003b.「認知言語学におけるイメージスキーマの先行研究」『認知言語学会論文集』第３巻

鍋島弘治朗　2003c.「領域を結ぶのは何か―メタファー理論における価値的類似性と構造的類似性―」『Proceedings of the 3rd JCLA Annual Meeting』認知言語学会

鍋島弘治朗　2003d. 特集：認知言語学のフロンティア　認知意味論―バークレー，ヨーロッパのメタファー研究を中心に『英語青年』第148巻第11号　pp.676-679.

鍋島弘治朗　2003e. メタファーと意味の構造性『認知言語学論考　No.2』ひつじ書房.

鍋島弘治朗　2004.「線条的類像性（Linear Iconicity）―自然界の秩序と語順のマッピングに関する日英対照研究」『認知言語学論文集』第４巻

鍋島弘治朗・菊地敦子　2003.「『問題』の概念化―認知メタファー理論の視点から―」『文学論集』第53巻　第２号　関西大学文学会

中本敬子　1999.「比喩の理解と解釈：心理学的モデル概観」『早稲田大学大学院文学研究科紀要.』45-1.

Nomura, Masahiro. 1996. “The ubiquity of the fluid metaphor in Japanese: a case study”, *Poetica*, 46.

大堀壽夫　2002『認知言語学』東京大学出版会

瀬戸賢一　1995.『空間のレトリック』海鳴社

杉本孝司　1998.『意味論〈２〉認知意味論』くろしお出版

辻大介　1995.「隠喩解釈の認知過程とコミュニケーション」『東京大学社会情報研究所紀要』No.50.

Wittgenstein, 1953 *Philosophical Investigations*. New York: Macmillan.

山梨正明　1988.『比喩と理解』東京大学出版会

山梨正明　1995.『認知文法論』ひつじ書房
山梨正明　2000.『認知言語学原理』くろしお出版
山梨正明・有馬通子編　2003.「現代言語学の潮流」勁草書房